

# 文教委員会報告資料

令和8年1月23日

報告事項件名	頁
(教育指導部)	
(1) 足立はばたき塾運営委託の公募型プロポーザルによる事業者の特定結果について …	2
(2) 「第8回 『足立区図書館を使った調べる学習コンクール』」について……	6
(3) 令和7年度第1回不登校支援連絡会の開催結果について……………	8
(4) 不登校オンライン支援事業「room-k」の終了について……………	11
(5) 令和8年度特別支援学級の応募結果及び新設・増学級等について……………	13
(学校運営部)	
(6) 令和8年度保護者負担軽減策の実施方法について……………	15
(7) 花畑地区の適正規模・適正配置実施計画案(第1版)策定について……………	17
(8) 足立区給付型奨学金の採用候補者の決定について……………	20
(9) 社会人を対象とした足立区奨学金返済支援助成の審査結果について……………	22
(子ども家庭部)	
なし	

( 教 育 委 員 会 )

# 文教委員会報告資料

令和8年1月23日

件名	足立はばたき塾運営委託の公募型プロポーザルによる事業者の特定結果について
所管部課名	教育指導部学力定着推進課
内容	<p>足立はばたき塾委託事業者選定委員会におけるプロポーザル方式による審議の結果、以下の事業者を契約の相手方として特定したので、以下のとおり報告する。</p> <p><b>1 業務名</b> 足立はばたき塾運営委託</p> <p><b>2 業務目的、内容</b> 家庭の事情などにより、塾等の学習機会が少ないが、成績上位で学習意欲が高く、将来の夢の実現に向けて難関高校等への進学を目指す中学生に対し、民間教育事業者を活用した学習機会及び受験情報を提供し、志望する高校への入学を支援する。</p> <p><b>3 現在の受託者</b> 株式会社エデュケーショナルネットワーク</p> <p><b>4 特定した相手方</b> (1) 事業者名 株式会社エデュケーショナルネットワーク (代表取締役 大久保 忠志) (2) 所在地 東京都千代田区神田猿楽町1-5-15 猿楽町SSビル4F</p> <p><b>5 申込事業者数</b> 3事業者</p> <p><b>6 提案価格</b> 32,817,400円(税込) ※ 対現年度比1,522,400円増(約4.9%増) 【参考】 塾生1人当たりの費用 328,174円/年(定員:100名) ※ 対現年度比15,224円増(約4.9%増)</p> <p><b>7 業務期間</b> 令和8年1月23日～令和9年3月31日 ※ 履行状況が良好な場合に限り、最長4回(令和13年3月31日まで)契約を更新することができる。</p>

## 8 特定事業者の評価ポイント

事業への理解度と 独自提案	<p>① 従来の受験対策に加え、進路決定後、<u>高校での学習を見据えた講座</u>も提案した。</p> <p>② 提案事業者の中で、本事業への理解度が最も高かった。</p>
入塾前のサポート体制	<p>① 通塾に不安のある生徒・保護者に対し、<u>希望制で面談を実施</u>する。</p> <p>② <u>入塾前に把握した生徒の学習に対する姿勢や自己管理の傾向を踏まえ</u>、一律ではなく、学習計画の立て方や声かけの方法に配慮した、<u>生徒一人ひとりに適した指導を行う</u>など、より指導効果が<u>高まる</u>提案をした。</p>
家庭学習サポート体制の 充実	<p>① 塾生が家庭での自主学習において生じた疑問について、<u>時間や回数にとらわれずオンラインで質問できる環境</u>が整っており、提案事業者の中で最も充実していた。</p>
プレゼンテーションと 提案書の総合評価	<p>① 提案書の内容は他の事業者に比べて具体的であり、<u>事業運営上の課題である途中退塾を防ぐため、入塾前段階の不安を解消する改善策</u>が示されていた。</p> <p>② <u>プレゼンテーションにおいて</u>担当者の説明が的確で、<u>最も熱意が感じられた</u>。</p>

## 9 特定までの経緯

### (1) 公募期間

令和7年8月26日から同年9月5日まで

### (2) 選定委員会

#### ア 委員会開催状況

	開催日	内 容
第1回	令和7年8月22日	選定方法や評価項目等の確認
第2回	令和7年10月23日 ※（開催を省略）	第一次選考 （提案書提出者の選定：書類選考）
第3回	令和7年11月20日	第二次選考 （事業者の特定：プレゼンテーション、ヒアリング）

※ 参加表明者が10者以下であったため、第一次選考を省略

イ 委員構成（計 7 名）

種別	氏名	役職等
学識経験者	石塚 等 【委員長】	横浜国立大学教職大学院教授
	石田 有記	日本体育大学教授
区 民	笠井 健	区立中学校 P T A 連合会
	宮澤 めぐみ	区立中学校 P T A 連合会
区職員	三輪 政継	谷中中学校長
	佐々木 昭央	入谷南中学校長
	田巻 正義	教育指導部長

ウ 審査項目及び審査結果

添付資料「足立はばたき塾運営委託 提案書特定結果（第二次）」  
のとおり（P 5 参照）

**10 今後の方針**

令和 8 年 1 月 2 3 日からの事業開始に向けて、事業者と調整し準備を進める。

足立はばたき塾運営委託 提案書特定結果（第二次）

項番	評価項目		指標	配点	エデュケーション ショナル ネットワー	A者	B者
	分類						
1	提案内容 的的確性	業務計画（指導内容）や業務実施手順は妥当か	足立はばたき塾の目的と特性を十分に理解した方針を示しているか。難関高校等への進学に向けた学力を身に付けることが期待できるプログラム（年間指導計画および1日の受講スケジュール）を提案し、効果を高める工夫を凝らしているか。	70	62	54	48
2			業務実施手順は妥当か。参加生徒や実施会場の管理を含め、円滑な運営のための配慮があるか。				
3	提案内容 的的確性	業務遂行体制は妥当か	足立はばたき塾の業務遂行体制を運営していく上で十分な業務実績があるか。	70	62	54	54
4			業務に精通し、業務を総括する管理責任者が配置されているか。担当課との緊急時の連絡体制が整っているか。				
5			事業趣旨に沿った力量の講師を配置できているか。人数は妥当か。				
6	提案内容 的的確性	雇用の方針（社として、公共事業を受託するにあたり、適切な人材を採用しているか）	教育事業者として、講師や社員の採用時に求める方針がしっかりしているか。	35	30	28	24
7	提案内容 的的確性	講師について	講師の採用基準、講師に求める資質。	35	30	28	24
8			講座実施にあたっての講師の研修計画、研修体制。				
9	提案内容 的的確性	参加生徒の在籍校や保護者への情報発信や連携への考え方・方法	参加生徒の在籍校や保護者との具体的かつ効果的な連携と協力が図られているか。	70	52	52	42
10	提案内容 的的確性	通塾の代替策	通塾困難となった生徒に対しても効果的な学習指導を行えるか。	35	29	26	24
11	提案内容 的的確性	安全安心の確保、個人情報セキュリティ等法令順守に対する取り組み	参加生徒の安全確保に関する方針は具体的に示されているか。	70	58	56	50
12			個人情報保護、内部情報漏洩防止、そのほかの関連法令の内規などが、具体的かつ充実しているか。				
13	受験対策	受験対策を総合的に見た評価全般	通常講座や特別講座での教科に関する講座を通じ、参加生徒の志望校合格に向けた学力および学習意欲の向上が期待できるか。	105	93	69	72
14			教科に関する講座以外の受験対策が充実しているか。				
15			難関高校等への進学に向けた有効な受験情報を有しており、生徒への情報提供の機会とその内容が充実しているか。				
16	教材	教材を総合的に見た評価全般	教材の内容は、生徒たちに合った内容であるか。また、家庭学習用教材を含め量は適切か。	35	29	23	27
17	プレゼンテーション 全体	プレゼンテーション、参考資料等を総合的に見た評価	業務従事者が誠実で意欲が感じられるか。また、質疑応答が的確で説明がわかりやすいか。事業に対する意欲、理解が十分に感じられるか。	140	124	104	92
18			提案書の内容はわかりやすく、具体的なものであるか。財務審査資料の内容から、安心して業務委託をすることができるか。				
19	コスト	コストは妥当か	講師の賃金に影響をあたえるような不当に廉価な価格を提示していないか。費用対効果を期待できるか。見積書の積算は妥当で明確か。	35	25	29	25
合計				700	594	523	482
区内事業者	区内に本店があり、対象業務区域が区内である場合(5点加算)						
	区内に本店があり、対象業務区域が区外である場合(4点加算)						
	区内に支店があり、対象業務区域が区内である場合(3点加算)			21	21	21	21
	区内に支店があり、対象業務区域が区外である場合(2点加算)						
総合計					615	544	503
選定結果					特定	非特定	非特定

※ 配点は、委員7名の合計点

# 文 教 委 員 会 報 告 資 料

令和 8 年 1 月 2 3 日

件 名	「第 8 回 『足立区図書館を使った調べる学習コンクール』」について																										
所管部課名	教育指導部教育指導課																										
内 容	「第 8 回 『足立区図書館を使った調べる学習コンクール』」の応募状況及び審査結果について、以下のとおり概要を報告する。																										
	1 応募状況及び審査結果																										
	(1) 応募校数 ※ ( ) は昨年度																										
	<table><tr><th>小学校</th><th>中学校</th><th>合計</th></tr><tr><td>6 6</td><td>3 0</td><td>9 6</td></tr><tr><td>( 6 6 )</td><td>( 3 2 )</td><td>( 9 8 )</td></tr></table>	小学校	中学校	合計	6 6	3 0	9 6	( 6 6 )	( 3 2 )	( 9 8 )																	
	小学校	中学校	合計																								
	6 6	3 0	9 6																								
	( 6 6 )	( 3 2 )	( 9 8 )																								
	(2) 応募数及び全国審査への出品数について ※ ( ) は昨年度																										
	<table><tr><th rowspan="3">作品数</th><th colspan="5">応募総数</th></tr><tr><th colspan="3">小学校</th><th rowspan="2">中学校</th><th rowspan="2">合計</th></tr><tr><th>低学年</th><th>中学年</th><th>高学年</th></tr><tr><td>応募総数</td><td>1, 4 2 7 ( 1, 3 7 6 )</td><td>3, 2 5 3 ( 3, 3 3 3 )</td><td>4, 8 9 3 ( 4, 7 2 1 )</td><td>2, 9 9 6 ( 2, 8 3 8 )</td><td>12, 5 6 9 ( 12, 2 6 8 )</td></tr><tr><td>足立区入選 ※全国審査に出品</td><td>2 1 ( 2 1 )</td><td>4 9 ( 5 0 )</td><td>7 4 ( 7 1 )</td><td>4 4 ( 4 2 )</td><td>1 8 8 ( 1 8 4 )</td></tr></table>	作品数	応募総数					小学校			中学校	合計	低学年	中学年	高学年	応募総数	1, 4 2 7 ( 1, 3 7 6 )	3, 2 5 3 ( 3, 3 3 3 )	4, 8 9 3 ( 4, 7 2 1 )	2, 9 9 6 ( 2, 8 3 8 )	12, 5 6 9 ( 12, 2 6 8 )	足立区入選 ※全国審査に出品	2 1 ( 2 1 )	4 9 ( 5 0 )	7 4 ( 7 1 )	4 4 ( 4 2 )	1 8 8 ( 1 8 4 )
	作品数		応募総数																								
小学校			中学校	合計																							
低学年		中学年			高学年																						
応募総数	1, 4 2 7 ( 1, 3 7 6 )	3, 2 5 3 ( 3, 3 3 3 )	4, 8 9 3 ( 4, 7 2 1 )	2, 9 9 6 ( 2, 8 3 8 )	12, 5 6 9 ( 12, 2 6 8 )																						
足立区入選 ※全国審査に出品	2 1 ( 2 1 )	4 9 ( 5 0 )	7 4 ( 7 1 )	4 4 ( 4 2 )	1 8 8 ( 1 8 4 )																						
※全国審査出品数は、応募総数の 1 . 5 %																											
(3) 足立区特別賞について																											
全国審査に出品する 1 8 8 点から、小学校（低、中、高学年）3 部門、中学校 1 部門の計 4 部門において審査員 1 1 名が 1 作品ずつ足立区特別賞 4 4 作品を選出した。受賞者数は以下のとおり。																											
<table><tr><th>賞の種類</th><th>受賞者数</th></tr><tr><td>区長賞</td><td>4</td></tr><tr><td>教育長賞</td><td>4</td></tr><tr><td>教育委員賞（4 名）</td><td>1 6</td></tr><tr><td>学校図書館部担当校長賞（2 名）</td><td>8</td></tr></table>	賞の種類	受賞者数	区長賞	4	教育長賞	4	教育委員賞（4 名）	1 6	学校図書館部担当校長賞（2 名）	8																	
賞の種類	受賞者数																										
区長賞	4																										
教育長賞	4																										
教育委員賞（4 名）	1 6																										
学校図書館部担当校長賞（2 名）	8																										

図書館長賞	4
教育指導課長賞	4
千住賞	4
合計	4 4

## 2 図書館の利活用や調べる学習コンクールにおける今年度の傾向

夏季期間中（7月1日から8月31日まで）において、足立区立図書館におけるレファレンス（調べものの相談）サービスが昨年度に比べて増加した。

足立区立図書館における小中学生のレファレンスサービスの利用者数と貸し出し冊数

	令和6年度	令和7年度
利用者数	389人	1,027人
貸し出し冊数	1,246冊	2,373冊

### 【今後の方針】

- （1）全国審査における入選・入賞の結果については、令和8年1月14日（水）に図書館振興財団ホームページにて公表される予定である。結果について、後日改めて報告する。
- （2）優良作品は足立区ホームページ上で3月上旬頃に公開する。
- （3）コンクール開催の通知を早めたことで、児童・生徒が授業においてテーマ決めや調べ学習に時間をかけて取り組むことができた。来年度も5月末に全小中学校に開催通知を発出する。
- （4）来年度以降も、引き続き教育政策課と連携し、学校図書館の利活用の推進を図り、児童・生徒の図書館を使って調べる力の育成を図る。

# 文 教 委 員 会 報 告 事 項

令和8年1月23日

件 名	令和7年度第1回不登校支援連絡会の開催結果について															
所管部課名	教育指導部不登校施策推進担当課															
内 容	<p>令和7年度第1回足立区不登校支援連絡会の開催結果について報告する。なお、令和6年度からの変更点として、一層効果的かつ活発な意見交換とするため、団体の特性に分け2つの部会「地域活動団体部会」「学習・教育部会」を設置した。</p> <p><b>1 日時・会場</b></p> <table><tr><th>部会</th><th>日時</th><th>会場</th></tr><tr><td>地域活動団体部会</td><td>令和7年11月19日(水) 18時～19時</td><td>足立区役所 庁舎ホール</td></tr><tr><td>学習・教育部会</td><td>令和7年12月 4日(木) 17時半～18時半</td><td>足立区役所 13階会議室</td></tr></table> <p><b>2 参加団体数</b> 合計18団体 ※ その他、小・中校長会、小・中PTA連合会、区職員</p> <p><b>3 内容</b> (1) 「不登校児童・生徒の現状と区の支援」「本連絡会について」 (2) 各法人・団体の不登校児童・生徒に係る課題等 (3) 質疑応答</p> <p><b>4 主な意見及び今後の方針</b> (1) 地域活動団体部会</p> <table><tr><th>議題</th><th>意見</th><th>今後の方針</th></tr><tr><td>不登校に関する情報について</td><td>① 居場所の情報発信 区には、子どもにあう様々な居場所があり、例えば「子ども食堂マップ」のように、不登校の子ども居場所を知ることができる情報を、集約し発信して欲しい。</td><td>① 居場所情報の集約 部会において「団体間で不登校の子ども居場所をマップ化する取組を進める」との話もあり、今後当該団体と情報共有しながら、内容や周知方法を検討していく。</td></tr></table>	部会	日時	会場	地域活動団体部会	令和7年11月19日(水) 18時～19時	足立区役所 庁舎ホール	学習・教育部会	令和7年12月 4日(木) 17時半～18時半	足立区役所 13階会議室	議題	意見	今後の方針	不登校に関する情報について	① 居場所の情報発信 区には、子どもにあう様々な居場所があり、例えば「子ども食堂マップ」のように、不登校の子ども居場所を知ることができる情報を、集約し発信して欲しい。	① 居場所情報の集約 部会において「団体間で不登校の子ども居場所をマップ化する取組を進める」との話もあり、今後当該団体と情報共有しながら、内容や周知方法を検討していく。
部会	日時	会場														
地域活動団体部会	令和7年11月19日(水) 18時～19時	足立区役所 庁舎ホール														
学習・教育部会	令和7年12月 4日(木) 17時半～18時半	足立区役所 13階会議室														
議題	意見	今後の方針														
不登校に関する情報について	① 居場所の情報発信 区には、子どもにあう様々な居場所があり、例えば「子ども食堂マップ」のように、不登校の子ども居場所を知ることができる情報を、集約し発信して欲しい。	① 居場所情報の集約 部会において「団体間で不登校の子ども居場所をマップ化する取組を進める」との話もあり、今後当該団体と情報共有しながら、内容や周知方法を検討していく。														



		議題	意見	今後の方針
	不登校に関する情報について		<b>② 平易な情報取得</b> より保護者が情報にたどり着きやすくなるよう工夫して欲しい。	<b>② ポータルサイトの充実</b> 庁内各課より不登校児童・生徒及び保護者に関連する情報提供を募り、不登校支援ポータルサイトに集約し、内容の充実を図る。
			<b>③ 情報の早期取得</b> 保護者が不登校支援に関する情報を早く知ることができれば、スムーズに教育相談や支援に繋がることができる。	<b>③ 教職員等による情報発信</b> 部会後、改めて登校支援ガイドを教職員へ周知した。今後、学校現場からの情報発信を強化できるよう取り組んでいく。
	その他		<b>① 不登校についての考え方</b> 不登校にはマイナスのイメージがあるので、あたたかく受け入れられる風潮になると良い。	<b>① 不登校支援連絡会での意見交換</b> 不登校に関する考え方について、不登校支援連絡会等にて引き続き意見交換を行っていく。
			<b>② 保護者向け出張講座</b> 区が主催し保護者が赴くのではなく、出張講座のような形で保護者向けの講座をお願いできないか。	<b>② アウトリーチによる新たな支援の実施</b> 区と PTA 連合会などの団体が連携し、アウトリーチによる「保護者向け講座の実施」等、新たな保護者支援を検討する。

(2) 学習・教育部会

議題	意見	今後の方針
小学校低学年の居場所について	<b>① フリースクールでの受入</b> 低学年ほど個別対応が必要となるが、フリースクールでは、その対応に必要なノウハウと人材を確保することが難しい。 また、中学生を主としたフリースクールを運営している場合、低学年は、別室の確保が困難であったり、年齢の差による関わりの難しさがある。	<b>① 不登校支援連絡会での協議</b> フリースクールでの低学年の受け入れについては、引き続き不登校支援連絡会にて協議を行っていく。

議題	意見	今後の方針
小学校低学年の居場所について	<b>② 学校内の居場所</b> 一部の小学校では空き教室を活用し、独自に SSR（スモール・ステップ・ルーム）のような校内の居場所を作り、登校サポーターの協力のもと見守り支援をしている。	<b>② 校内別室の充実</b> 区としては学校と連携し、まずは校内の別室の環境整備と登校サポーターの確保に努めていく。併せて、学校外の小学校低学年の居場所の確保も検討していく。
保護者支援について	<b>① 小学生の保護者への支援</b> 中学生の保護者を想定した教育支援のセミナーに、予想以上に小学生の保護者の参加が多く、小学生の保護者への支援については、協力できる部分があると思う。	<b>① 事業者と連携した支援策の検討</b> 近年低年齢化する、不登校児童・生徒の保護者への支援の強化のため、不登校支援連絡会を通じて、事業者と連携した保護者支援のあり方を検討していく。

### 5 今後の予定

令和8年3月下旬 第2回足立区不登校支援連絡会

※ 「全体会」又は「各部会」どちらを実施するかは検討中

# 文教委員会報告資料

令和8年1月23日

件 名	<b>不登校オンライン支援事業「room-k」の終了について</b>
所管部課名	教育指導部不登校施策推進担当課
内 容	<p>区では、不登校児童・生徒を対象としたオンラインによる支援として、令和5年度から認定特定非営利活動法人カタリバが運営しているroom-Kを活用している。</p> <p>この度、運営事業者から、令和7年度末をもって区へのサービスを終了する旨申し出があったため報告する。</p> <p><b>1 区へのサービス終了の理由</b></p> <p>(1) room-Kの事業縮小</p> <p>ア room-Kに活用できる寄付額の減少</p> <p>イ 多種多様なプログラム実施による運営負荷の増大</p> <p>(2) 事業の持続可能性が不十分</p> <p>事業継続の見通しが立っておらず、事業のあり方を再構築する必要があり、新たな児童・生徒の受け入れは困難</p> <p><b>2 区への影響</b></p> <p>現在、区の利用者（3名）は全て中学3年生であり、令和7年度末をもって卒業（支援終了）となるため、事業終了に伴う影響はない。</p> <p><b>3 room-Kの利用状況について</b></p> <p>(1) 区の利用状況</p> <p>令和5年度：4名</p> <p>令和6年度：4名</p> <p>令和7年度：3名</p> <p>※ いずれも中学生</p> <p>(2) 効果</p> <p>参加前と比較すると、各種プログラムへの積極的な参加や他者との交流が見られるようになった。</p> <p>ア 約束を守り、時間どおりの行動ができるようになった。</p> <p>イ 人に質問する、自分からやりたいことを発信するなど、自発的なコミュニケーションが増えた。</p> <p><b>4 room-Kと東京都バーチャル・ラーニング・プラットフォーム（東京都VLP）について</b></p> <p>どちらも仮想空間を活用した支援事業となるが、次頁の表のとおり内容が異なる。</p>

	room-k	東京都 VLP
事業内容	オンラインでの伴走支援と学びの場づくり	都がオンラインの仮想空間を構築し、アバターによる不登校児童・生徒の居場所を提供
対象者	不登校が長期化し対面による個別支援が難しい児童・生徒	同左
費用	1, 692 千円 ※ 令和7年度予算額	無料 ※ 令和8年度も都は無料の方向で検討中（ただし、都が配置する空間内の支援員（管理者）等、一部機能は有料になる可能性あり。）。
利用人数 (定員)	3 人（3 人）	26 人（50 人）
支援内容	① 学習、クラブ活動等プログラムの実施 ② メンター（伴走スタッフ）による面談 ③ 個別支援計画を作成し保護者へ共有	① AIドリル等、学習コンテンツによる個別学習 ② 支援員（管理者）とのチャットによる交流 ③ イベントを通じた他者との交流

**5 今後の方針**

不登校が長期化する児童・生徒に対しては、伴走支援が一定の効果をもたらすことが分かったため、今後、オンライン支援は東京都 VLP に一本化するとともに、東京都 VLP 内で実施するイベントなどのコンテンツを充実させ、不登校児童・生徒がログインするキッカケづくりに一層取り組み、支援を行っていく。

なお、東京都 VLP について、都からは令和7年度末で現行の運営事業者や運用等が変更になる可能性が示されているが、現時点では具体的な内容が提示されていない状況にあり、引き続き都の状況を注視していく。

# 文教委員会報告資料

令和8年1月23日

件 名	令和8年度特別支援学級の応募結果及び新設・増学級等について					
所管部課名	こども支援センターげんき支援管理課					
内 容	<p>令和8年度特別支援学級の応募結果を報告する。</p> <p>なお、令和7年度の入級及び抽選の状況を踏まえ、特別支援学級を小学校3校、中学校2校で新設した。また、応募数が受入可能人数を超えている特別支援学級については、学校と調整した結果、小学校3校・中学校3校において増学級を実施した。</p> <p><b>1 特別支援学級の応募結果及び新設・増学級</b></p> <p>(1) 小学校の状況</p>					
	地区	学校名	受入可能人数 【4月当初】	増学級	受入可能人数 【増学級後】	応募数
	千住	千寿桜	11人(3)	—	11人(3)	3人
		千寿常東	9人(3)	—	9人(3)	3人
	北西	栗原北	新設	16人(2)	16人(2)	7人
		古千谷	6人(3)	—	6人(3)	3人
		鹿浜第一	6人(4)	—	6人(4)	7人 ○
		西新井第一	新設	8人(1)	8人(1)	1人
		西伊興	3人(4)	—	3人(4)	5人 ○
		瀏 江	5人(4)	—	5人(4)	5人
	北東	桜 花	9人(3)	—	9人(3)	1人
		辰 沼	6人(3)	8人(1)	14人(4)	6人
		花 畑	13人(4)	—	13人(4)	6人
		平 野	2人(3)	—	2人(3)	5人 ○
		瀏江第一	新設	8人(1)	8人(1)	1人
		六 木	6人(2)	—	6人(2)	2人
	南西	梅島第二	6人(2)	—	6人(2)	5人
		江 北	4人(4)	—	4人(4)	5人 ○
		関 原	3人(3)	—	3人(3)	3人
		本 木	10人(4)	—	10人(4)	1人
	南東	青 井	6人(2)	—	6人(2)	4人
		足 立	3人(3)	8人(1)	11人(4)	4人
		東瀏江	4人(4)	—	4人(4)	9人 ○
	新田	新 田	3人(2)	8人(1)	11人(3)	2人
		宮 城	4人(1)	—	4人(1)	2人
		合 計	119人(61)	56人(7)	175人(68)	90人

(2) 中学校の状況

地区	学校名	受入可能人数 【4月当初】	増学級	受入可能人数 【増学級後】	応募数	抽選
千住	第 一	8 人 (2)	8 人 (1)	1 6 人 (3)	1 1 人	
北西	伊 興	5 人 (3)	—	5 人 (3)	1 0 人	○
	入 谷	新設	8 人 (1)	8 人 (1)	4 人	
	鹿浜菜の花	1 2 人 (4)	—	1 2 人 (4)	7 人	
北東	第十三	1 4 人 (4)	—	1 4 人 (4)	1 0 人	
	花 畑	1 5 人 (3)	—	1 5 人 (3)	8 人	
南西	第 六	2 人 (2)	8 人 (1)	1 0 人 (3)	9 人	
	第 七	1 1 人 (4)	—	1 1 人 (4)	1 0 人	
南東	蒲 原	新設	8 人 (1)	8 人 (1)	2 人	
	栗 島	1 1 人 (4)	—	1 1 人 (4)	6 人	
	東綾瀬	1 5 人 (4)	—	1 5 人 (4)	6 人	
新田	新 田	8 人 (2)	8 人 (1)	1 6 人 (3)	4 人	
	合 計	1 0 1 人 (3 2)	4 0 人 (5)	1 4 1 人 (3 7)	8 7 人	

※ ( ) は学級数

※ 抽選については、1 2 月 1 3 日に実施済。抽選により希望に添えなかった方については、空きのある近隣校で対応

2 令和 8 年度の対応

- (1) 新設・増学級により小学 1 年生を多く受け入れる小学校の負担を軽減するため、「学習支援員」を配置する。
- (2) 抽選により希望に添えなかった方についても、遠方の学校へ通い易くなるよう、保護者の付き添いにかかる交通費補助制度を検討する。
- (3) 上記補助制度を活用し、特別支援学級の地域的な偏在に対応しながら、引き続き、新設・増学級について検討していく。

# 文教委員会報告資料

令和8年1月23日

件名	令和8年度保護者負担軽減策の実施方法について												
所管部課名	学校運営部学校支援課												
内 容	保護者負担を軽減するための補助教材費、自然教室の食事代、修学旅行費用（以下「保護者負担軽減策」という。）について、令和8年度の実施方法を報告する。												
	<b>1 令和8年度の変更点</b> 令和7年度は、保護者負担軽減策にかかる経費すべてを保護者に納入いただき、実績に応じて保護者へ返金（精算）することとしていたが、令和8年度からは、保護者に負担のかからない方法で進めていく。												
	<table><tr><td></td><td>令和7年度 (現行)</td><td>令和8年度 (変更点)</td></tr><tr><td>保護者の納入 (学校徴収金)</td><td><u>あり</u> (全額を一度納入)</td><td><u>なし</u> (ただし、補助上限額を超えるものおよび、対象外のものは除く)</td></tr><tr><td>返金（精算）</td><td><u>あり</u> (保護者負担軽減策適用分を後日返金)</td><td><u>なし</u></td></tr><tr><td>保護者負担軽減策補助金交付（学校長口座への入金）</td><td><u>令和7年7月上旬</u></td><td><u>令和8年4月上旬</u></td></tr></table>		令和7年度 (現行)	令和8年度 (変更点)	保護者の納入 (学校徴収金)	<u>あり</u> (全額を一度納入)	<u>なし</u> (ただし、補助上限額を超えるものおよび、対象外のものは除く)	返金（精算）	<u>あり</u> (保護者負担軽減策適用分を後日返金)	<u>なし</u>	保護者負担軽減策補助金交付（学校長口座への入金）	<u>令和7年7月上旬</u>	<u>令和8年4月上旬</u>
		令和7年度 (現行)	令和8年度 (変更点)										
保護者の納入 (学校徴収金)	<u>あり</u> (全額を一度納入)	<u>なし</u> (ただし、補助上限額を超えるものおよび、対象外のものは除く)											
返金（精算）	<u>あり</u> (保護者負担軽減策適用分を後日返金)	<u>なし</u>											
保護者負担軽減策補助金交付（学校長口座への入金）	<u>令和7年7月上旬</u>	<u>令和8年4月上旬</u>											
<div><div><b>【令和7年度】</b><div><div>区</div><div>保護者</div><div>学校</div><div>補助金</div><div>精算</div><div>納入</div><div>返金 (※1)</div></div></div><div>➡</div><div><b>【令和8年度】</b><div><div>区</div><div>保護者(※2)</div><div>学校</div><div>補助金</div><div>精算</div></div></div></div>													

	<p>※1 保護者負担軽減策の適用分の返金</p> <p>※2 各種保護者負担軽減策の補助上限額を超える費用および保護者負担軽減策の対象外については、今までどおり保護者負担となる。</p>
--	--



文教委員会報告資料

令和8年1月23日

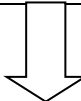
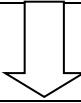
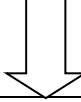
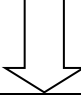
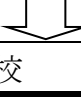
件名	花畑地区の適正規模・適正配置実施計画案（第1版）策定について						
所管部課名	学校運営部学校適正配置担当課						
内容	<p>令和7年10月に策定した「足立区立小中学校の適正規模・適正配置ガイドライン」に基づき、次のとおり、花畑地区の計画案を報告する。</p> <p><b>1 計画（案）等</b></p> <p>（1）適正規模・適正配置実施計画（案）（第1版）【別添資料1】</p> <p>（2）資料編【別添資料2】</p> <p><b>2 計画（案）概要</b></p> <p>（1）統合対象校</p> <p>学区内に居住する児童・生徒数や就学前人口、学区変更の検討結果等に基づき、次の学校を統合する。</p> <table><tr><td>中学校</td><td>花畑北中学校</td><td>花畑中学校</td></tr><tr><td>小学校</td><td>花畑西小学校</td><td>桜花小学校</td></tr></table> <p>学校配置図（花畑地区）</p>	中学校	花畑北中学校	花畑中学校	小学校	花畑西小学校	桜花小学校
中学校	花畑北中学校	花畑中学校					
小学校	花畑西小学校	桜花小学校					

(2) 統合後の学校配置等

統合後の仮校舎や新校の配置については、次の分析結果を踏まえ、地域や学校関係者のご意見も伺いながら検討する。

	中学校 (花畑北中+花畑中)	小学校 (花畑西小+桜花小)
適正配置 の視点	どちらの敷地でも、望ましい通学距離(学校まで直線距離1,800m)の範囲内	① どちらの敷地でも、望ましい通学距離(学校まで直線距離1,200m)を一部超過 ② 桜花小のほうが超過距離が短く、超過地域に居住する児童数も少ない
敷地面積 の視点	花畑中(14,122㎡)のほうが、花畑北中(13,223㎡)より約900㎡広い	桜花小(11,826㎡)のほうが、花畑西小(10,537㎡)より約1,200㎡広い
施設更新 の視点	花畑中の築年数は60年以上経過(花畑北中より15年古い)	どちらも築年数は50年以上経過

(3) 主なスケジュール(予定)

	中学校 (花畑北中+花畑中)	小学校 (花畑西小+桜花小)
令和8年1月	素案(第1版)の議会報告	
	関係者説明 ① 花畑地区町会・自治会連合会 ② 花畑北中、花畑中、花畑西小、桜花小、花畑第一小(開かれた学校づくり協議会、保護者等)	
7月	素案(第2版)の議会報告 ※ 地域等関係者のご意見を踏まえ、仮校舎や新校の配置を記載	
12月	統合地域協議会(※)の設置	
令和10年12月		統合地域協議会(※)の設置
令和12年4月	学校統合(仮校舎で学校運営)	
令和14年4月		学校統合(仮校舎で学校運営)
令和16年4月	新校開校	
令和18年4月		新校開校

※ 統合対象校の「開かれた学校づくり協議会」代表者中心に構成

	<p>(4) 請願を踏まえた検討</p> <p>平成29年6月に区議会で採択された「花畑地区学校統合に伴い、魅力ある公教育、教育環境を実現し文教地区・花畑を目指すことを求める請願」を踏まえ、地域や学校関係者のご意見も伺いながら、請願の願意を満たす取組の実現を目指す。</p> <p><b>3 今後の方針</b></p> <p>関係者の理解が得られるよう、引き続き丁寧に説明しながら、実施計画の成案化と統合地域協議会の設置を目指していく。</p>
--	--

# 文教委員会報告資料

令和8年1月23日

件名	足立区給付型奨学金の採用候補者の決定について															
所管部課名	学校運営部学務課															
内 容	足立区給付型奨学金（令和7年度募集）について、採用候補者を決定したため、以下のとおり報告する。															
	<b>1 申請状況</b>															
	（1）募集期間 令和7年6月20日（金）～7月18日（金）															
	（2）申請者数 228人（前回 令和6年度募集：206人） 【内訳】① 通常申込：成績4.0以上 149人 ② 特別申込：成績4.0未満でテストを受験 79人（文系44人、理系35人）															
	<b>2 特別申込者を対象とした「テスト」の実施</b>															
（1）実施日、実施場所 令和7年8月23日（土）、足立区役所庁舎ホール																
（2）実施結果	<table><tr><td>項目</td><td>人数</td><td>備考</td></tr><tr><td>受験対象者</td><td>75人</td><td>特別申込者79人のうち、年収要件を満たしていない等を理由に却下となった者（4人）を除く。</td></tr><tr><td>受験者数</td><td>70人</td><td>文系：38人、理系32人</td></tr><tr><td>欠席者数</td><td>5人</td><td></td></tr><tr><td>テスト合格者</td><td>21人</td><td>文系：13人、理系8人 ※ 募集要項では受験者の上位15～20%が合格ラインと案内しているが、今回も弾力的に合格者を増やした。</td></tr></table>	項目	人数	備考	受験対象者	75人	特別申込者79人のうち、年収要件を満たしていない等を理由に却下となった者（4人）を除く。	受験者数	70人	文系：38人、理系32人	欠席者数	5人		テスト合格者	21人	文系：13人、理系8人 ※ 募集要項では受験者の上位15～20%が合格ラインと案内しているが、今回も弾力的に合格者を増やした。
項目	人数	備考														
受験対象者	75人	特別申込者79人のうち、年収要件を満たしていない等を理由に却下となった者（4人）を除く。														
受験者数	70人	文系：38人、理系32人														
欠席者数	5人															
テスト合格者	21人	文系：13人、理系8人 ※ 募集要項では受験者の上位15～20%が合格ラインと案内しているが、今回も弾力的に合格者を増やした。														
<b>3 一次審査の結果：所得＋学修計画表（作文）</b>																
（1）対象者数 170人 【内訳】① 通常申込者：149人 ② テスト合格者：21人																

(2) 一次審査の結果

分類		人数
一次審査通過者（二次審査進出者）		48人
一次審査落選者	合格ライン未達	109人
	年収要件を満たしていない	8人
	居住要件を満たしていない	2人
	成績要件を満たしていない	2人
	在学要件を満たしていない	1人
小計		122人
合計		170人

**4 二次審査の結果：面接**

(1) 実施日

令和7年11月15日（土）、16日（日）

(2) 対象者数

48人

(3) 二次審査の結果

ア 採用候補者：45人

イ 不採用者：1人

ウ 面接欠席者：2人

※ 足立区育英資金審議会（12/16開催）にて審議のうえ、決定した。

# 文 教 委 員 会 報 告 資 料

令和8年1月23日

件 名	社会人を対象とした足立区奨学金返済支援助成の審査結果について								
所管部課名	学校運営部学務課								
内 容	<p>社会人を対象とした足立区奨学金返済支援助成（令和7年度募集）について、交付決定を行ったため、以下のとおり報告する。</p> <p><b>1 募集期間</b> 令和7年9月1日（月）～10月15日（水）</p> <p><b>2 助成額</b> 申請の前年中に対象となる奨学金を返済した金額の半額（上限10万円。最長10年、最大100万円まで）</p> <p><b>3 定員</b> 200人</p> <p><b>4 申請者数</b> 374人 【内訳】① オンライン：226人（60%） ② 郵送・窓口：148人（40%）</p> <p><b>5 審査結果</b> 不交付、却下を除き、260人（申請者の約70%）の交付を決定。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th><th>人数等</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>交付決定</td><td>260人（定員200人＋弾力枠60人 ※） ※ 予算2,000万円の枠内で弾力的に決定した。</td></tr> <tr> <td>不交付</td><td>42人（申請要件を満たすが、順位づけで外れた者）</td></tr> <tr> <td>却 下</td><td>72人（収入超過等で申請要件を満たさない者）</td></tr> </tbody> </table> <p><b>6 交付総額（予定）</b> 19,932,000円（平均76,662円×260人）</p> <p><b>7 今後の予定</b> 令和8年1～3月：助成金支払</p>	項目	人数等	交付決定	260人（定員200人＋弾力枠60人 ※） ※ 予算2,000万円の枠内で弾力的に決定した。	不交付	42人（申請要件を満たすが、順位づけで外れた者）	却 下	72人（収入超過等で申請要件を満たさない者）
項目	人数等								
交付決定	260人（定員200人＋弾力枠60人 ※） ※ 予算2,000万円の枠内で弾力的に決定した。								
不交付	42人（申請要件を満たすが、順位づけで外れた者）								
却 下	72人（収入超過等で申請要件を満たさない者）								